

江戸幕府の滅亡

1 / 1

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

大正

今日の問い

江戸幕府は、どのようにして滅びたのだろうか。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 開国後の混乱と尊王攘夷

開国後の社会

尊王攘夷

天皇を尊び、外国を打ち払おうとする考え。

安政の大獄

井伊直弼が、幕府に反対する大名や武士らを処罰した事件。

吉田松陰

長州藩の思想家。松下村塾で教え、安政の大獄で処刑された。

貿易が始まると、生糸などが大量に輸出されて国内で品不足になり、物価が上がって人々の生活は苦しくなった。また、金と銀の交換の比率が日本と外国でちがったため、大量の金が国外へ流れ出た。開国した幕府への不満から、天皇を尊び外国を打ち払おうとする尊王攘夷の考えが、武士や公家の間に広まった。とくに長州藩では、この考えが強まった。

大老の井伊直弼は、幕府の政治や条約の調印に反対する大名・公家・武士らを厳しく処罰し、長州藩の吉田松陰らを処刑した(安政の大獄)。これに反発した水戸藩などの浪士は、1860年、江戸城の桜田門の外で井伊直弼を暗殺した(桜田門外の変)。大老が江戸城のすぐ近くで討たれたことで、幕府の権威は大きくゆらいだ。

2 薩長同盟と幕府の滅亡

倒幕への道

薩長同盟

1866年、薩摩藩と長州藩が倒幕のために結んだ同盟。

大政奉還

1867年、徳川慶喜が政権を朝廷に返したこと。

戊辰戦争

1868～69年、旧幕府軍と新政府軍の戦い。

薩摩藩は、前年の生麦事件をきっかけに、1863年の薩英戦争でイギリス艦隊と戦った。長州藩は1863年に下関海峡を通る外国船を砲撃したが、翌年、イギリス・フランス・アメリカ・オランダの艦隊に下関の砲台を占領された。攘夷の難しさを知った両藩は、土佐藩出身の坂本龍馬の仲立ちで1866年に薩長同盟を結び、幕府をたおす倒幕へと向かった。

1867年、15代将軍徳川慶喜は政権を朝廷に返す大政奉還を行ったが、朝廷は王政復古の大号令を出して天皇中心の政治にもどすことを宣言し、約260年続いた江戸幕府はなくなった。1868年、京都近くの鳥羽・伏見の戦いから戊辰戦争が始まった。江戸城は、新政府軍の西郷隆盛と旧幕府の勝海舟の話し合いで、戦わずに明け渡された。1869年、函館の五稜郭で旧幕府軍が降伏し、新政府が国内を統一した。

薩長同盟
1866年大政奉還
1867年王政復古の大号令
1867年戊辰戦争
1868～69年

問いへの答え

開国後、物価の上昇などから尊王攘夷の考えが広まり、安政の大獄や桜田門外の変で幕府の権威はゆらいだ。攘夷の難しさを知った薩摩藩と長州藩は、坂本龍馬の仲立ちで薩長同盟を結び、倒幕を目指した。1867年、徳川慶喜は大政奉還を行ったが、王政復古の大号令で江戸幕府はなくなった。旧幕府軍も、1868年に始まった戊辰戦争で新政府軍に敗れた。

次は ノート で、下線に語句を書きながら確かめよう →

